

Pfeffel, Johann Andreas

Schweizerisches Trachten=Cabinet oder allerhand Kleidungen, wie man solche in dem löblichen Schweizer=Canton Zürich zutragen pflegt.

Augsbourg, Johann Andreas Pfeffel, [ca. 1750].

Ivol. 20 plates (copper mono.). 25×38.5cm. <K383. 134-P> 文献番号 4-20

Hiler p. 705 Colas 2339 Lipper. 920

フェッフェル『スイス地方の衣装のコレクション；或いはスイス・チューリヒ地方の様々な服装』

本書は、18世紀初頭におけるスイスのチューリヒ地方の様々な服装が描かれた銅版画集である。注1) 標題に続いて20枚の図版で構成され、それぞれ右上に図版番号、脚部にドイツ語とフランス語の解説が記されている。

収録されている図版は、以下の通りである。

- ①市庁舎に向かう議員
- ②司祭
- ③普段着で散歩する紳士
- ④教会や街に出かける市民
- ⑤普段着の受験生と学生
- ⑥街や市場に買い物に行く農夫
- ⑦畑で鋤をかついでいる農夫の息子
- ⑧教会に行く貴族の女性
- ⑨喪服を着た女性
- ⑩教会に行く市民
- ⑪子供に洗礼

を受けさせるために教会に行く若い女性 ⑫子供に洗礼を受けさせた後、家に連れて帰る若い女性 ⑬礼拝用の衣服を着た若い女性 ⑭晴れ着を着た女性 ⑮愛娘と二人連れの女性 ⑯婦人や若い女性の乗馬服 ⑰散歩服の若い女性 ⑱庭で編物をする女性 ⑲召使 ⑳田舎から街に買い物に出かける娘と二人連れの農婦

以上男性6枚、女性14枚の克明な版画が収められている。

描かれている人物の服装は、宗教服・宮廷服(司祭・貴族)、市民服(職業服・制服・式服・スポーツ服)で構成されている。

更に、これらの衣服は普段着、作業着、外出着(母子)、晴れ着(女性)、学生服、喪服、散歩服、乗馬服、礼拝用の服装などで、司祭と貴



図1 教会や街に出かける市民の服装

族を除いては、庶民の服装が中心となっている。とりわけ帽子のデザインはいずれもユニークで、チューリヒ地方独特の民俗色が個性的に表現されている。

脚部の解説には、登場人物の職業、服飾などの特徴が簡潔に記され、図版はのびやかで品格のある筆勢で細部まで緻密に描かれている。

背後に描き込まれた情景は、建物や街路をはじめ、織物組合、鍛冶屋、弓の練習場、公衆浴場など当時の生活ぶりを窺い知る事が出来る。

チューリヒ地方におけるこの時代の服装は、ルイ 14 世時代の影響を受け市民の服装は帽子から靴に至るまで 17 世紀から 18 世紀初頭にかけてのフランスの服装に類似している。

当時を代表する婦人、および紳士服の特徴は、概ね次の 2 図に象徴されよう。

図 1 に見る「教会や街に出かける市民の服装」は、1690 年代におけるフランスの宮廷服を取り入れた裕福な市民のスタイルである。ダブリットはベスト（胴着）に、ジュストコートはアビ（長上着）に変化し、その時代を反映している。

長上着、ウエストコート（長胴着）は膝丈になり、ウエストラインの位置でぴったりと絞られ、前の打合せ、ベスト、カフス、ポケット等に多数のボタンホールを作り、ボタンで飾っている。袖付きの長胴着は長上着のカフスに折り返され、シャツの手首にはフリルが付けられた。長上着と長胴着の襟は長いかつらを付けるため襟なしになり、ゆったりとしたシャツは垂れ襟で、のちにローンやレース製のクラブットへ移行する契機となった。

長胴着と対に着用する半ズボンの裾は、長い靴下の中に入れ、膝下で留めるのが習慣とされ、16 世紀から流行している毛皮のマフは、リボンで飾り、ウエストに巻いたりベルトに付けて冬に着用されたが、のちに羽毛、絹など刺繍を施した豪華でおしゃれなものに発展している。

帽子は、トリコルヌと呼ばれる端を巻き上げた三角帽をかぶり、剣は装飾用の長剣を使用した。長剣は、長胴着の下に飾り紐で取り付け、長上着の裾の空いた部分から見えるように吊るしている。

靴は黒が多く（狩猟時は茶）、つま先は四角にカットされ、舌革が付いている。

図 2 は「婦人や若い女性の乗馬服」の図で解説には「結婚式や結婚



図 2 婦人や若い女性の乗馬服

の披露宴には着用する習慣となっている」とある。

婦人用の乗馬服は、長上着・長胴着などの紳士服のデザインが基底となっている。長上着は、襟なしで前打合せ・ポケット・袖口の大きなカフスのボタンホール、袖口のフリルも紳士服と共通するデザインとなっている。スティンケルクは17世紀末フランスで流行したスカーフの一種で、レースやローンが使用され、両端をよじってボタンホールの中に入れて使用するのが慣例であった。

スカートは、横乗りで鞍の上に垂れかかるほど十分にゆとりを入れたデザインで、トリコルヌ（三角帽）には大きなりボンが付いている。フォンタンジュ^{注2}のキャップに付けられた長いりボンは前で結んだり、後ろに流してアクセサリーとして使用した。

画家 J. A. フェッフェルは、1715年に銅版画家の息子として誕生した。画商でもあった父親はウィーンアカデミーに所属し、建築、装飾文様など多くの芸術的な挿絵を制作した。中でもショイヒツァー聖書の刊行は、父フェッフェルの偉業と評されている。

フェッフェルは、父親の後継者として肖像画、風景画等の銅版画家として活躍した。また、ショイヒツァー聖書の刊行にも携わり、1768年に53歳でアウクスブルクにおいて死去した。

尚、本書は B. ピカール画「サクラメント教会における洗礼式の図」(Administration du Sacrement de baptesme, inventé par B. Picard.) <K383.134-P> 等、図版 22 枚の合綴書である。(守屋)

注1) 判型はクラインフォリオ判(25×38cm.)で、ベラムの装丁であったことが窺えるが、背・角以外はマーブル紙で補修され原形をとどめていない。標題はドイツ語とフランス語で記され、著者名・書名・出版地等の記載はあるが、刊行年はなく、ヒラー等の書誌によれば1750年頃の刊行とされている。

注2) 17世紀末から18世紀初頭にヨーロッパで流行した婦人のキャップの一種。フォンタンジュ夫人が愛用したことからこの名前が付けられた。